# あゆみ

Ｎｏ．１６３

令和　３年１２月１５日発行



編集　発行：社会福祉法人　啓明会　苓山寮・第二苓山寮
〒８６３－０００６　熊本県天草市本町下河内 680
TEL　0969-22-5339・0969-22-1766　　FAX　0969-22-5090
E-mail　reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp
社会福祉法人啓明会ホームページＵＲＬ　http://keimeikai.amakusa-web.jp/
施設の旬の話題を「レイザンＴＯＰＩＸ」にて更新中です。

**これからも皆さんの笑顔を咲かせ続けます！！**

## 「年の瀬に思うこと」

施設長　飽田　一夫

師走の声を聞くと何となく急かされるような気になるのは、私だけでしょうか。令和三年度は三月末までですが、暦が新しくなるにあたり、ついこの一年を振り返り、やり残したことはないかと周りを見渡してしまいます。私にもやり残した事は沢山ありますが、グループホームはばたきの大規模改修が十二月に終わったことで、四カ所のグループホーム全ての整備が完了し、懸案事項の一つは解決しました。利用者の皆さんがきれいになった住まいで新年を迎えられるのは、私にとってもとても嬉しいことです。

令和三年も新型コロナウィルスに翻弄された一年でした。目にも見えないような小さな存在に、人類全体が振り回される。考えれば自然の広さと深さと複雑さを思い知る出来事です。私達の周りには命を持った有象無象が数多存在し、それらが命を繋ぐために必死で活動している。私達もその有象無象の一つでしかありません。私達は自分のために多くの家畜を養いその命を奪って食べています。新型コロナウィルスも自分達のために人類を宿主にしているだけです。生物の繋がりの複雑さ、面白さを感じると言えば、ひんしゅくをかうかもしれませんが。

「共生社会」という言葉が世に出てきて随分になりますが、それが中々実現できない原因は、人間の中にある「自分との違いを受け入れられない、もしくは受け入れたくない」という心の中の壁だと、私は思っています。マルクスが説いた「共産主義」をついにどこの国も実現しえなかったのは、共産主義の理想が個人には受け入れがたいものだったからであるように。しかし、私にはそれに十分反論することができます。私達の日常は障害を持った方々と共にあります。一般の方々（あまり好きな表現ではありませんが、適当な言葉が見つかりません）とは少し違うたたずまい、振る舞い、コミュニケーションなども慣れてしまえば普通になります。差異を差異と感じなくなってくるのです。付き合えば付き合うほど「支援をする」「サービスを提供する」という言葉では括りきれない人と人との関係ができあがっていきます。その関係が全ての利用者と職員の間にできあがることが、私の理想とする施設です。そしてそのことが、共生社会の実現には不可欠だとも思います。

# サービスの現場より

## 『事務所便り二〇二一』

管理課長　大塚　伸二

新型コロナの影響で延期になっていた年金委員実務研修会に参加しました。働きながら受ける年金についてのルールが変わりますという内容で、変更点一つ目は六十歳～六四歳で在職中に受ける年金は、四年三月までは、合計した額が二八万を超えると超えた額に応じて年金が支給停止されますが、四月からは二八万円の基準が四七万に引き上げられ、六五歳以上で在職中の年金調整と同じ仕組みになります。二つ目は働いて保険料を納める期間が長ければ、将来受けられる年金額が多くなる厚生年金保険ですが、これまでは年金を受けながら六五歳以降も働いて保険料を納め続けた場合、退職するか七十歳になるまでその分が年金額に反映されませんでした。四月からは、保険料を納めた期間分をつど反映して改定されることになり、毎年年金額が増えていきます。その他にも年金を受け始める年齢が六十歳から七五歳の間で選べるようになります。都度変更点については情報を提供できるようにしていきたいと思います。

また、グループホームはばたきの大規模改修工事を熊本県障がい者福祉施設整備費補助金の交付を受け、十一月二九日竣工しました。定員を二十名から十名に変更して完全個室化、体力の低下が見られる利用者が増加していたため、バリアフリーにすることで、快適で安心して生活出来るようになります。関係各位の皆様大変有り難うございました。

## 『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援副主任　船岡　樹里

私が担当させていただいているOさんは、とても明るく何事に対しても積極的で、皆さんから頼りにされている方です。週に一度の寝具整理の日は、他利用者さんから「こっちもして」「お願い〇〇ちゃん」と引っ張りだこです。「よかよ、後で行くけん」と嫌な顔ひとつせず、最後まで手伝ってくださいます。又、食堂の後片付けの手伝いも行ってくれています。下膳する場所が混み合ってくると「そこに置いとって」と混雑しないように気遣ったり、テーブルを回り足が悪い方や自分で出来ない方のお手伝いをして下さいます。

そんな方ですが、時々お節介しすぎてトラブルに発展する事もあります。職員、利用者さん皆から頼りにされている方で、常に前向きなその姿に私達はいつも元気をもらっています。誰かに頼りにされる事が彼女の現在に繋がっていると思われます。これからも役割を持つ事で自信を持って貰い、リーダーシップを活かした新たな役割を一緒に見つけていきたいと思います。

## 『私の担当利用者さんへの取り組み』

支援員　飽田　華代子

私がIさんの担当をさせて頂くようになり九ヶ月が過ぎました。Iさんはドライブとお洒落を好まれ、笑顔がとても素敵な方です。四年前に脳梗塞を発症され、右片麻痺と失語症がありますが、身振り手振りで自分の意思をしっかりと示す事が出来ます。

そんなIさんですが、時々短い発語が自発的に見られる為、もっと言葉を引き出したいと様々な取り組みを行っています。普段から話し掛ける事はもちろんですが、写真を使ってのアプローチや、月一回は自宅へ電話を掛け、お姉さんから声を掛けて頂いています。また職員同士が協力して、Iさんに電話をかける等、様々な試みを行っています。現在その効果もあり、口を微かに開け、声を出そうとする仕草が見られ、月に一、二回程度発語も見られます。十一月からは嚥下体操にも力を入れています。個別に嚥下体操に参加して頂く事で、職員の仕草を真似するように口を動かす仕草があり、効果的な取り組みに繋がって欲しいと思います。今後も発語を引き出し、自己決定支援の充実を図っていけるよう、職員同士が連携して支援にあたりたいと考えています。

## 『風通しの良い職場を目指して』

管理主任　若田　雅哉

九月（オンライン）と十一月（外部講師）に職場のメンタルヘルス対策管理監督者研修会を実施しました。施設では、メンタルヘルスに携わっているという意識付けの一環として「心の健康づくり計画書」を職員一人ひとりに配布しています。副主任、主任、課長補佐、課長は職員の相談窓口者となってもらい、環境や体制作りには一番欠かせないポジションを担ってもらっています。今回は熊本県産業保健センター主催の研修を申込み、副主任以上の役職職員を対象に受講して頂きました。①ストレスとは・・・②職場のメンタルヘルス対策③ラインケア④パワハラ防止法の概要と以上四項目の研修で「職業生活でのストレスの状況」や「ストレス要因を把握する方法」「傾聴の効果」等を勉強させていただき、もし相談者がいた場合での体制作りや、環境整備等が本当に大切なことであり、難しいことであると再確認することができた研修会でした。

職員一人ひとりに自身の持っているストレス度の把握、メンタルヘルスに対する意識付けを行い、普段からコミュニケーションをとることが私たち相談窓口者として最も大切な役割だと感じました。

## 『入職三年を迎えて』

支援員　中村　聡希

第二苓山寮に入職して三年が過ぎました。日々諸先輩方よりアドバイスを頂きながら支援にあたっています。毎日の支援の中で、現在一番大事にしていることは「心の声を傾聴する」事です。施設には自分の考えを言葉で表現できる方、身振り手振りや、表情で表現される方等様々な利用者さんがいらっしゃいます。言葉を発することが出来る方でも実は違う意図を持って話し掛けて下さる場合も多々あります。

私の担当で運動会が大好きな方がいます。私も入職してしばらくは運動会の雰囲気が好きなのかな？と思っていました。そこで地元の運動会へ行ったら喜んで頂けるかと考え、地元の町民体育祭へ見学に行きました。昔からの多くの知り合いに「元気しとっとかな～？」としばらく囲まれ、大変嬉しそうにされていました。その時「父ちゃんがＨ！頑張れ～っち言うてな」と涙ぐむＨさんでした。その時に初めてＨさんの運動会が好きな理由が分かりました。今でも大事なＨさんの思い出なのだと思います。まだまだ経験が浅く先輩方の様にはいきませんが、これからしっかりとした支援員になれるよう利用者さんに寄り添っていきたいと思います。

## 『入職して二年が過ぎ』

支援員　松本　健史

私は苓山寮へ入職し、二年が経過しました。介護・福祉に携わる仕事は初めてで、先輩職員の方々に多くの事を教えて頂きながら仕事をさせて頂いています。支援方法や声掛け一つで利用者さんの対応・気分が変わられる中、先輩職員の方々は利用者さんの特性等を把握し、それぞれに合った支援や声掛けをされており、私も先輩職員の方々に少しでも近づけるように手本にさせて頂きながら支援を行っています。

三年目になり、ＯＪＴや新規入所の利用者さんの担当を初めてさせて頂きました。今まで教えて頂く事ばかりでしたが、ＯＪＴでは新たに入職した支援員へ教える立場となり、自分の頭では理解していても、いざ教えるとなると上手く伝える事の難しさを痛感しました。新規入所の利用者さんへの支援においては、先輩職員からアドバイスを頂きながら、試行錯誤し支援させて頂いています。利用者さんから名前で呼んで頂いたり、笑顔で沢山話しかけて頂く事で、私が日々元気・笑顔にさせて頂いています。私も利用者さんが楽しい生活、そして沢山笑顔になって頂けるよう今後も支援していきます。

# 苓秋祭

１０月２２日苓秋祭が開催されました。コロナ禍という事もあり、今年も苓山寮・第二苓山寮の二施設での開催となり、出店では、から揚げ、たこ焼き、フランクフルト等多くの食べ物が並び皆さん喜ばれていました。メインステージでは利用者さんによるカラオケ大会が開催され、飛び入り参加もあり大いに盛り上がりました。的当て等のミニゲームも有り、コロナ禍で地域の方をお招きできない小さなお祭りでしたが、利用者さんの笑顔で溢れるとても良い祭りとなりました。

# 創立記念日（５４回）

苓山寮・第二苓山寮の利用者さんと職員で工夫を凝らし、賑やかに開催出来ました。フラダンスサークルによるダンス披露、支援員によるクイズコーナーなど、利用者さんもとても楽しまれている中、今年はスペシャルゲストも登場！第二苓山寮の利用者さんは、歌に振り付けを付けダンスを披露してくださり、短い期間で一生懸命振り付けを覚え、上手に踊ることが出来て、発表した利用者さんもとても喜ばれていました。来年は地域の方々や保護者の皆さんをお招きして開催出来ればと思います。

## 【新職員紹介】

**岡部　千恵さん（ＧＨ事業所）**

大塚課長とは同級生です。全く初めての仕事ですが、毎日元気で働きたいと思います。利用者さんの笑顔のため頑張ります。

**丸谷孝太郎さん（ＧＨ事業所）**

入職して三ヶ月が過ぎ、まだ把握していない部分はありますが、先輩方に指導を仰ぎ、極めていきたいと思います。

**若松　碧さん（第二苓山寮）**

十一月より支援員として勤務しています。利用者さんが安心して生活出来るように支援をしていきたいと思います。

**宮﨑　範子さん（第二苓山寮）**

十一月より調理員として勤務しています。利用者の皆さんを笑顔にする食事を提供できるように頑張ります。

## 【グループホーム事業所紹介】第四弾

### ▽グループホームはばたき

グループホーム「はばたき」は平成元年に「本渡通勤寮」として開設され、多くの利用者さんを支えてきました。九月より改修工事が行われていましたが、工事関係者のご尽力により十一月末に無事竣工する事が出来ました。

現在、八人の利用者さんが利用されており、日中は世話人さんが作ったお弁当をもって、各々の職場へと出勤していかれます。休みの日には居室の清掃や買い物等に外出したり、明るく元気一杯で、そして頼もしい方達ばかりです。これからも利用者の皆さんのご発展とご活躍をサポートさせていただきます。

## 「こころす販売会」に参加して

久しぶりの展示販売会がこころすで開催されました。こころすでの販売会は初めてで、コロナ禍で幾つものイベントが中止となる中、約二年ぶりの参加となりました。十二月三・四・五日の三日間行われ、私達は乾燥椎茸、陶器、クリスマスリースにコーヒーを販売しました。沢山の方に来場頂きましたし、各参加施設の工夫をこらした商品は、大変参考になりました。売り上げも多く、大いに盛り上がった販売会になりました。

## くまもと障がい者芸術展

くまもと障がい者芸術展が十一月十六日から二一日まで熊本県立美術館分館で行われました。今年は両施設から三名ずつの計六名の利用者さんが陶芸や絵、手芸、ペットボトルキャップを使った絵画など、個性溢れる素晴らしい作品を出展されました。昨年は新型コロナウイルスの影響で見学できませんでしたが、今年は二一日に見学に行くことが出来ました。自分の作品は勿論ですが、他の施設の方達の作品もしっかり見て楽しまれていました。今回出展されなかった利用者さん数名も一緒に見学に行くことができ、来年はもっとたくさんの方が出展出来る様に支援していきたいと思いました。

## ＜行事予定＞

（変更あり次第、ご連絡します）

十二月

十九日　第九見学
二四日　クリスマス会
二七日　もちつき
二九日　御用納め

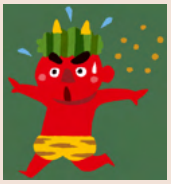
二〇二一年

一月

四日　御用始め
五日　配置医来寮
十二日　鬼火焚き
十三日　ポータブル胸写検診
二五日　第五回管内研修

二月

二日　配置医来寮
三日　節分豆まき
九日　管内買物
二四日　亀川小学校駒打ち体験



## ＜編集後記＞

令和三年もあとわずか、今年最後のあゆみの発行となりましたが、皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。新型コロナウイルス、オリンピックなど・・・思いは人それぞれ、そしてそれぞれの一年を過ごされたことと思います。人生は一度きり・・・とはよく言いますが「本当にそうだな」と思いました。

来年は自分はもちろん、利用者さんの、職員さんの幸せの実現に向け、さらに努力していきますので皆様、今後もご指導よろしくお願い致します。